

令和5年度第1回三浦市総合教育会議会議録

○日 時 令和6年1月25日(木) 午後1時30分～午後2時41分

○場 所 三浦市民交流センター

○次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 事
 - (1) 小中学校学力向上の取組みについて
- 4 報 告
 - (1) 三浦市立学校における働き方改革について
- 5 その他
- 6 閉 会

○出席者(6名)

市 長	吉 田 英 男
教 育 長	及 川 圭 介
教育長職務代理	石 崎 勇 吾
教 育 委 員	廣 瀬 牧 実
教 育 委 員	石 渡 博 幸
教 育 委 員	村 山 智 洋

○説明のために出席した職員

教 育 部 長	増 井 直 樹	教 育 総 務 課 長	塚 本 孝 治
学 校 教 育 課 長	増 田 格 人		

○事務局出席者

教育総務課教育総務グループリーダー	浦 西 伸 一	教 育 総 務 課 主 事	吉 田 か お り
-------------------	---------	---------------	-----------

○傍 聴(6名)

○増井教育部長 ただいまより、「令和5年度第1回三浦市総合教育会議」を開会いたします。

本日の会議の進行は増井が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項により、原則公開となりますので、御承知おきください。本日の会議開催にあたり傍聴希望者がおられますので入室の許可をいただきたくお願いします。

(傍聴希望者がおり議長(市長)に許可を受け傍聴者が入室)

○増井教育部長 改めまして、会議の主催者であります吉田市長から御挨拶をいただきます。吉田市長お願いいたします。

○吉田市長 皆さん、こんにちは。令和5年度三浦市総合教育会議に御出席いただきありがとうございます。ございます。

今回の議事については、以前から申し上げている小中学校の学力の向上の取組みについて、総合教育会議のテーマとしてさまざまな経験を生かして御意見をいただけたらと思います。

よろしくお願いいたします。

○増井教育部長 ありがとうございます。

議事の進行につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4において、地方公共団体の長が総合教育会議を設け、また、招集することとなっておりますので、市長に議長をお願いいたします。

○吉田市長 それでは議長を務めさせていただきます。本日の会議は議事事項1件、報告事項1件となります。

早速ですが、議事事項の(1)小中学校学力向上の取組みについて、事務局から説明をお願いします。

○増井教育部長 私の方から概要の説明をいたします。小中学校の学力向上の取組みにつきましては、先ほど市長の御挨拶にもありましたけれども、以前より課題であると認識をして取り組んでまいりました。

主な取組内容としましては、学校での授業改善や教員の意識の変革を求めることといったことを行ってきましたけれども、目に見える成果としての国の学力学習調査についてのポイントの向上にまでは至っておらない状況でした。そのような状況を踏まえて、今年度の教育委員による学校訪問時に各校での学力向上の取組みへの事情調査、また、事務局が考えます取組みについての御意見を定例教育委員会でいただくなどを行ってまいりました。そちらを基に事務局が現在考えております必要だと思われる取組みに関しまして、まとめたものを本日この会議で御報告をさせていただきます。

そちらにつきまして、市長や教育委員の皆さんに御議論いただきまして、御意見をいただいたうえで、今後の取組みを考えて決定してまいりたいと思います。御意見をいただけるようよろしく願いいたします。

詳しい説明につきましては、学校教育課長からさせていただきます。

○増田学校教育課長　それでは小中学校学力向上の取組みについて、学校教育課から御説明いたします。

別紙資料1ページを御覧ください。

まず、学力向上の現状と問題意識については、これまで学校ごとに全国学力学習状況調査の分析を行い、学校として子どもの強みや課題を把握して、学校教育目標や取組の重点を設定し、学力向上の取組を行ってまいりました。具体的には保護者への家庭学習への啓発、各校担当教員同士の分析の情報交換、校内研究やカリキュラム編成の工夫などをおした学力向上などがございます。

しかし、この全国学力学習状況調査は小学校6年生と中学校3年生という小中それぞれ1学年だけの調査でありますので、職員全体で自分事として学力向上に取り組んでいくということが困難でございました。

三浦市の過去3年間の全国学力学習状況調査の教科別平均正答率についてお示しをさせていただきました。全国と比べ低い傾向が続いております。小学校と中学校別に令和3年度から今年度までの3か年分を表示してございます。国立教育政策研究所では、平均正答率の±5%の範囲内は同程度であると表記がされております。中学校については令和3年まではその範囲で収まっておりました。しかし、令和4年、5年度の2か年についてはその差が拡大している状況でありますので、学力向上には新たな手立てが必要であると考えております。

次に、2ページを御覧ください。現状についての課題ですが、全国学力学習状況調査は一部の学年で行われているため、子どもたちの学力の状況を経年的に捉えるためのデータが不足しております。

教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善を行っていくためには、数値的に経年の変化を見とるデータが必要です。そのデータを基に、より一層、個に応じた指導、一人ひとりに合った支援を行い、子どもたちの力を伸ばしていく授業を行っていく必要があるのではないかと考えております。

子ども自身も自分の学力について客観的なデータが不足しておりましたので、学習意欲を高め、主体的に学んでいくことに課題があったと考えております。

家庭学習におきましては、家庭学習の向上に共通のデータや指針がなかったため、家庭での意識の差が家庭学習の取組の差につながってしまうのではないかと懸念がございました。

教員はもちろんのこと、子どもや家庭、保護者が子ども自身の学力状況を客観的かつ経年で確認できるデータの提供を行うことが学力向上のアセスメントとして必要ではないかと考えております。そこで、学力向上のアセスメントとして、令和6年度から三浦市学力調査を行えればと考えております。

3ページを御覧ください。対応といたしましては、令和6年度から三浦市学力調査を実施し、子どもたちの学習の状況を小学校2年生から中学校3年生まで経年的に捉えて蓄積を図ってはと思っております。教員が生きる力を育むためには、自分ごととして結果を分析し授業改善に

生かすことが必須であります。結果の分析について学ぶ機会をつくり、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進いたします。1人1台端末の活用をさらに推進し、AIドリルの購入を目指します。調査結果を踏まえて個別最適化された学習ができるよう、環境整備を行ってまいりたいと思っております。

また、小中連携の推進、分析方法や授業改善などに関する教員研修、学校研究との連携などの事業を行ってまいります。子どもは自らが調査結果を用いて、学力の状況を理解して学習意欲を高め主体的に学べるよう、個に応じた指導や一人ひとりに合った支援を行っていききたいと思っております。家庭学習の充実のために啓発活動を併せて行っていききたいと思っております。

これらの事業はR P D C Aサイクルの視点を用いて、令和6年度におきましては、調査（Research）に基づいて、学校と市で連携をしながら計画（Plan）を立て、それを基に日々の授業改善や教員研修、家庭学習の充実（Do）の事業を行っていききたいと考えております。

翌年度以降は、年度初めの調査（Research）が前年度の授業改善の有効性の検証（Check）の役目も果たすこととなります。また、市としては10月から12月ごろに事業の成果の点検（Check）を行います。これらをもってさらなる計画（Plan）作り、各種事業等（Do）を行っていきます。この一連の流れにより、学力向上の取組を深化（Action）させていくかたちで進めさせていただければと思います。

以上で説明を終わります。よろしくお願いいたします。

○吉田市長 説明は終わりました。

御質問、御意見等ありましたらをお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○石崎委員 学力向上の鍵はやはり授業づくりだと思います。そして子どもたちの教員への信頼性というか教員一人一人のスキルアップをしていただいて、子どもたちの学力向上になるように計画してもらっていると思いますので、よろしくお願いいたします。

○村山委員 とてもいい取組みだと思います。予算の都合も出てくると思いますし、これからどのようなかたちで調査をしていくのかというところが課題になってくるとは思うんですけども、市長いらっしゃるので、三浦市全体で教育を盛り上げていくことが、教育が充実した街というのは三浦市の魅力になるのではないかと思います。そもそも自然が豊かというのは三浦の強みですから、そのことを利用しながら併せて学力向上のR P D C Aサイクルを検証しながら継続的に子どもたちを支えていく街であるというのは市全体で取り組んでいくのが大切だろうなと思いますので、その辺りを皆さんで協力できるとよいと思います。

○廣瀬委員 毎年の学力調査というのは、成果を見ていくためとか、個々や年々の課題を見つけていくにはとても有効だなと思います。対応のところに教員が生きる力を育むためには、自分ごととして結果を分析し授業改善に生かすことが必須である。と書いてありますが、やはり課題を掴めても個々では改善するのはとても簡単なことではないと思います。そこには一人ではできないので保護者の協力も必要だと思いますし、全体での研究、もちろん教育委員会も寄り添ってしっかりとした土台を基にきちんと先生たちが動けるように進めていただきたいなと思いました。

それからA Iドリルを購入し、と書いてありましたが、今タブレットはしっかりと用意されていて、今もすでにドリルのようなものを使っている学校もあったと思うのですが、そのドリルとは別のものということでしょうか。

○増田学校教育課長 資料に記載しているA Iドリルというのは、今の想定では学力調査の結果を取り込んで、反映してその子に応じた弱みや強みをA Iドリルで考えて、その子にあったドリルを出すというものを考えております。

○廣瀬委員 個々にあったものを出せるということですね。

○吉田市長 そのA Iドリルというのはパターンがいくつもあるんですか。

○増田学校教育課長 問題を系統別に並べていて、その子が弱いと感じたところを出すかたちになっているので、その子に応じてステップアップが組まれるかたちになるそうです。

○吉田市長 パターンがいろいろあって、A Iが判断するということですか。

○増井教育部長 その子に応じて問題を作るというわけではなく、A Iドリルの中にいくつかのドリルがあって、調査結果によって児童生徒の足りない部分をA Iが勧めてくれるというようなものがA Iドリルです。いくつもの無限のパターンがあるというわけではありませんが、その子が取り組むべきものを勧めてくれるといったものです。

○吉田市長 例えば、読解力が弱いとか計算が弱いとかそれぞれの子どもたちの特徴を捉えてドリルの内容の傾向を変えていくということですか。

○増田学校教育課長 そのとおりです。

○及川教育長 個人の結果とドリルが結びついているので、調査の結果、弱いところや、さらに伸ばすところをA Iがその子に合った問題を出してくれるということですか。

○吉田市長 それはA Iの判断が子どもたちの日常の成績や授業態度等の面でA Iが出したものをそのままというわけではなく、担任の先生等がこれでよいかチェックをしてドリルを提供するのですか。

○増田学校教育課長 市長がおっしゃることもそのとおりですが、担任が個別にその子に合わせたものを提供することも可能ですし、自動でA Iがその子に合ったカリキュラムを編成することもできます。さらには、家庭でもログインをして見ることもできますので、家庭で状況を確認しながら家庭学習に生かすこともできると考えております。

○吉田市長 授業は確実的に行えるから、家庭学習のためのドリルという考えでいいのですか。

○増田学校教育課長 家庭学習と学校の中でも5、10分の計算の時間というのもありますので、そういう場面でも活用できると考えます。

○吉田市長 では、AIドリルを導入しているところは、ほかでもあるのですか。

○増田学校教育課長 何社か伺った中ではそういった連携を取っている学校もあると聞いております。神奈川県内ではまだ数自治体しかありませんけれども、そのような取組みを行おうと考えているところはあると聞いております。

○石渡委員 こういうかたちで教育委員会のほうから、今まで国が実施してきた学状について結果を見るだけで、現場に任されていたということで、そういう意味では一步踏み込んで教育委員会が学校とともにやっていこうという姿勢がみえて、現場を経験した身としてはありがたいことだと思います。現場の先生にも考えていただいて、子どもの現状を捉えて無理のないように行っていただければと思います。

質問なのですが、三浦市学力調査というのはどのようなかたちで、いつ頃行うのか今の段階で分かっているならば教えていただきたいです。それからくれぐれも教育委員会が示していた、個々の成績主義だけではないという部分は継続されていくと思っていますので、その辺りを含めて従来の考え方を推奨しながら、教育委員会と学校が手を取り合っとうまく考えられる場になればいいなと思います。

○増田学校教育課長 全国学力学習状況調査が4月第3週ごろに行われるのが通例となっておりますので、今のところ三浦市学力状況調査につきましても同日の開催で目指しております。そうすることにより、今までは1つの学年のためにほかの学年が協力して静謐な関係づくりをしていましたけれども、その日は学力調査の日ということで一斉に雰囲気づくりをできるのかなと思っています。また、契約については問題の作成から回収、結果の配付等も含めまして委託業務でお願いしようと考えております。

○増井教育部長 石渡委員からの御懸念について、学力学習状況調査は点数化されて個々の児童生徒の状況を把握するという側面がございます。個々の学力の状況を見る一つの側面であると言われております。今回、学力向上のためということで、6年生と3年生だけに全国的に行われている同じような調査をほかの学年にも拡大して行いたいと思っていますが、これは点数を上げるためだけに行うものではないというのが大前提として教育委員会としても思っています。あくまで、個々の学習について少し努力すべき部分等を把握するための資料として活用、学校としても活用していくことを目指していることについては、以前からの教育委員会の考えと変わりはありません。

○及川教育長　今の部長の話に補足してなんですけれども、学力というのは範囲が広く、当然捉え方もいろいろあって、何をもって学力とするのかはそれだけでも議論されていくべきでありますけれども、今回学力向上は今までの反省も踏まえまして、やはり学力ということをきちんと定義してその部分でどうなのか変化を見ながら、それに対して必要な手立てを打っていけるようなことを行っていこうと考えておりまして、今回の学力ということについては、学習指導要領で未来を生きる今の子どもたちに付けていかなければならないとされている力、一般的にいうと生きる力ですね、生きる力が子どもたちにきちんと育まれているかどうかを見ていこうということで校長たちとも議論してきました。

そうした中でそれを図るのに相応しいものは何か、分かりやすいものは何かというのが全国学力学習状況調査の結果ということになります。学力学習状況調査の問題というのは、学習指導要領で求められている内容を踏まえた問題になっておりますので、その問題の結果の状況を見ることによって、今、子どもたちに求められている力が付いているかということが見ることができよう。だからそれに類する問題をほかの学年でも行うことによって、経年的にという言葉が先ほどから出ていますけれども、その子の学年ごとの様子をきちんと把握しながら、それに見合った学年の手立て、子どもに対する手立てを家庭の協力を得ながら進めていこうということを考えております。これは校長たちとの間でも半年前くらいから議論してきていて、教育委員の方たちにも11月に学校訪問をさせていただきましたけれども、そのときにも校長、教頭との協議の中で学力、今言った定義を踏まえて学力に関する協議を行ってきました。その辺りをきちんと整理して的確な取組みをしていくことができればと思っています。

○吉田市長　私からいくつか聞きたいことがあります。そもそも今、教育長が言っていた、「生きる力」や資料に書かれている「主体的・対話的で深い学び」というのは教育長がよく使う言葉で、私にはよく分からないから好きじゃないんだけど、全国学力学習状況調査というのは客観的に見える数値だから、このレベルを上げるというのは、三浦市の学力のレベルを上げてほしいというのは、全国学力学習状況調査でできる客観的なレベルを上げてほしいというのは私の考えで、教育委員会に今まで言ってきた内容なんです。これについて、ここ3年ぐらいのデータを見るとマイナスの幅が広がっているわけだから、もっと危機感を持ってもらわないといけないです。子どもたちに責任があるというよりも大人としての責任を果たしていかなければいけないと思います。この学力向上についてのテーマをお願いしているのだけれど、教育委員会が考えている三浦市としての学力調査を小6と中3以外のほかの学年でも行うことは、学校側としては迷惑だと思っていますのでしょいか。

○及川教育長　それはないです。校長たちとも話をしていますので。

○吉田市長　この取組は、校長たちは理解しているということですね。こういう施策がいいと思っているのでしょうか。

○及川教育長　その辺りは事前に協議をしていますので、理解はしてもらっています。

○吉田市長　これは、学校ごとの平均値とかは、県内の市町村のレベル感というのは分かるんですか。

○増田学校教育課長　学校間の数字等は序列化や過度の競争に繋がらないように公表はいたしません。しかし、このデータについては個人票、学校ごとの集計表ができますので、家庭や学校が把握することはできます。

○吉田市長　学校ごとに把握できているんですか。

○増田学校教育課長　はい、学校ごとに教育委員会も把握しております。

○吉田市長　では、神奈川県内の小中学校のレベルは、プラスマイナスでいいんだけども公表されていますか。

○及川教育長　市町村については公表されています。

○吉田市長　その中のレベル感では三浦市はどのなのでしょう。

○及川教育長　決して高くはないです。

○増田学校教育課長　県内の平均からしても低い数字となっております。ただ、順位等については手持ちの資料がございませんので分かりません。

○吉田市長　県内の平均というのは大体どのくらいですか。

○増田学校教育課長　今年度の国語、算数で申し上げますと、神奈川県の前年正答率で国語が66パーセント、算数が63パーセントとなっております。三浦市では国語が55パーセント、算数についても55パーセントとなっております。

○吉田市長　10パーセントくらい低いわけですね。

○増田学校教育課長　はい、今のが小学校の数値になります。

中学校のほうも申し上げますと、神奈川県の前年正答率が70パーセントに対して、三浦市が62パーセント。数学については神奈川県の前年正答率が63パーセントに対して、三浦市が55パーセント。英語については神奈川県の前年正答率が50パーセントに対して、三浦市が41パーセントとなっております。

○吉田市長　全体的に県内の平均値よりもかなり低いということですね。

○増田学校教育課長　はい、プラスマイナス5パーセントを超えて低くなっております。

○吉田市長 レベルアップしなければいけないですね。

それで、いろいろ考えてくれている結果だと思うんだけど、県内のレベル感や学校ごとのレベル感というのは、教員の人たちは分かっているのでしょうか。つまり、A小学校、A中学校の教員の人たちは自分たちのレベル感が県内平均に比べて大分落ちているという実態は知っているのでしょうか。

○増田学校教育課長 それにつきましては、各学校が把握をして学校ごとに学力向上の取組みをそれを基に考えていただいております。

○吉田市長 今回の施策を打ち出すことによって、学校側も教える立場としてレベルアップをする目標数値とかを持たせるつもりはないですか。

例えば、マイナス5パーセントを超えているわけだから、令和6年度においてはマイナス5パーセント以内までもっていき。というようなものとか、それがいいか悪いかという話ではないけれどそのような数値目標は持っていないんですか。

○増田学校教育課長 現在は数値目標というのは持っていませんけれども、今後この学力向上の取組みがプロジェクト化されていく中では、そういった指標をもって取組みを強化していただく必要はあるかと思えます。

○吉田市長 要は、その穏やかな思想で、穏やかな生徒たちで、子どもたちものびのびしていくというのはもちろんいいことだと思います。けれども、学校というのはやっぱり勉強するところだからこれから社会に出ていくにあたって学力というのは重要だと思います。だから、教員の皆さんにも危機感を持っていただくような取組、学力向上を三浦市教育委員会として本当に目指していくのであれば姿勢を見せるという意味でも、きめ細やかな施策をしてほしいと思います。

今回いろいろ提示してもらっているけれども、学校の意見もきちんと聞いて、こういう方向を目指していると、ほかの都市のレベル感というのも学校側でも分かってくれていると、これは今年に限ってではなく、下がってきてしまっているわけだから、このままではいけない、学力向上を目指そうというのをきちんと学校側にも理解してもらって取り組んでもらう。この間の教育委員会との打合せの中でも、この取組は年1回でいいのか、日常のテスト等のフィードバックを担当だけに任せちゃっていいのか、ほかの教員もお互いにけん制したりだとか、担任の指導をしなくてもいいのかというような、いわゆる学校全体として担任任せというのではなくて、教員間でも連携していったほうがいいのか。という意見も出して、真剣に取り組んでほしいと思います。今回の総合教育会議でも、市として大きなテーマとして掲げさせていただいたわけなんですけれども、これから令和6年度の新しい取組みで取り組んでもらうということで、予算もありますので、是非きちんと実績と結果を残していただけることをやっていただきたいというのが私の考えです。ですから、三浦市として学力向上の取組みの目標を掲げてもらったほうがいいと思います。数値目標は難しいと思うけど、一番の問題の根本は児童

生徒、指導する教員だと思うので、客観的に見る人間が数値目標だなんておこがましいけれども、レベルアップはしてもらおうというのは目標にしてほしいなと思います。

廣瀬委員の保育園では何か教育的なこともやっておられますか。学習の面というのではなくて、どうしているのですか。

○廣瀬委員　もちろん保育園でもありますがけれども、学校にもつながるのかなと思うんですけど、家庭がものすごく影響してくるとするのは正直なところあります。学校だけではやり切れない部分も多いと思うので、家庭を巻き込まないと学力向上につながっていかないのではないかなと思います。やっぱり安定していない家庭もありますし、そういうお子さんが学校へ行ったときに落ち着いて授業を受けられるかなという不安をもって送り出す子もいるので、そういう家庭との連携も考えていくべきかな、と思ったのと、あとは今いろいろなお話を聞いて、学力向上を目指してそれは子どもたちに戻ってくるものだと思うので大事だと思うんですけども、あまり大人目線にならないようにやっぱり子どもが一番なので、毎年行うということは点数がはっきりしてきてしまうので、周りが思っていなくても子どもの劣等感につながったり、そういうことはすごく避けなければいけないと思うので、先生たちも点数だけではなくて子ども一人一人の良さとか広い目で一人一人を捉えていくことが大事かなと、信頼関係も学力向上につながっていくと思いますので。

○吉田市長　そうですね。家庭目線で石崎委員はどうですか。

○石崎委員　一つ質問なんですけれども、家庭学習の充実のための啓発活動というのは今後どのように変えていこうと考えているのでしょうか。

○増田学校教育課長　まず、初年度については初めて結果を手にしめますので、これが何なのかというのをしっかりお伝えしながら、見方、家庭学習へどのように生かすかということを理解していただくのが第一かなと思いますので、今までなかったんですけれども、市として家庭学習についての啓発を印刷物や学校での何かを生かしてもらおうのか、そういうものをつくっていかうと考えています。

○石崎委員　以前の定例会議の中で三浦独自の問題ではなく他市町村と比べられるようにしていく方向でとのことでしたが、それは自分の個人としての点数の比較ができるようなかたちになっていくのでしょうか。

○増田学校教育課長　表示の仕方が安易なかたちでは表示されないと思いますけれども、三浦市の中でこの辺りだとか、縦軸の中のこの辺りとか、科目等ごとに表示できるものが用意できますので、その中で三浦市として必要なものが表示できるかと思います。

○石崎委員　子どもたちの学力的に応じた個別の啓発活動をすることができるということですか。

○増田学校教育課長 調査票については、その子に応じたアドバイス等も載ってくるということになります。

○吉田市長 村山委員、親御さんたちはどう思うでしょうか。

○村山委員 そうですね、小学6年生と中学3年生の全国の試験なので、気がついたときには出来ていなかったというのでは困ると思うんですね。小学6年生でできなかったから中学1年で頑張るからと言っても中々できないですし、難しいと思うので、前のどの段階から何処ができていないのか、ということをお学校も子どもたちも理解して、自分の足りないところを無理なく補っていくようにする。急に6年生でいくら頑張ろうとしても大変だと思いますし、私の娘も6年生ですが実際にできていなくて驚いたのですが、中学生に上がってさあ頑張ろうとは中々難しいところがあるので。家庭としてもしっかりとやっていかなければならないところもありますけれども、その前段階で何ができなかったのか、学校や子どもたちも理解してくれればいいかなと思いますし、落ちこぼれをつくらないということではないと思いますけど、話を聞いていると広くケアできるのではないかなと感じます。

○吉田市長 令和6年度に行うとして、新しい保護者の皆さんには紙で配るとか説明会を行うというのは考えていますか。

○増田学校教育課長 はい。当然導入には理解が必要になりますので、そういうところからスタートしなければいけないと思っています。

○吉田市長 市の方針としては行うということになると思うけれども、保護者から意見でいろいろ思われる方もいらっしゃるから、紛糾したりするのかな。どのように予想していますか。

○増井教育部長 先ほども申し上げましたけれども、序列をつけるためのものでもございせんし、点数を上げることを目指して子どもたちに指導するためのものでもないと思っておりますので、あくまでも現在の子どもの学習の習熟度や理解度を客観的に把握できるツールであると思っていますから、これを行うことによって起こる反発等は今後の調査の活用の方によるものだと思っておりますので、これ自体について大きな反対をいただくものではないかなと考えております。

○吉田市長 教育委員会としては、学校と協議を重ねて積み上げてきたものであるときちんと説明して、理解されるよう丁寧におこなっていかないとはいけませんね。

○石渡委員 市長のおっしゃることはもっともだと思うので、やっぱり客観的レベルの底上げというのは理解できるのですが、今まで6年生、中3という単発的なものであって、小学生は分からないままにこういうものがあって、各学校では説明はされていると思いますけれども、それが自分たちにとりいう部分ではまだ浸透しているのかなと疑問に思っている部分はあります。

そういう意味で、今回考えられた経年で取り扱われて、個人の様子がある程度掴めるのかなと、そのデータとしても、学年によっても違うことがあるのではないかと思います。その辺りを先生方がしっかり管理しながら、教育委員会も現場とかかわりながら、個人、全体的なレベルアップになっていくと今後の深化をみながら学校がどのように利用して、子どもたちのためにやっていけるのかということが大切かと思しますので、結果として客観的レベルという部分が上がればいいと思いますけれども、個々を捉えてある段階から強化するところ、素晴らしい部分をお話するというのはいいことではないかなと思います。ですから、予算も含めて心配される部分もあると思いますけれども、そういう中で家庭学習の啓発を行って、色々な情報を切磋琢磨しながら上手に利用していければいいものになるのではないかなと思います。

○吉田市長　では、今の議論を含めてもう一度整理をして、教育委員会や学校と調整をして、もちろん保護者への説明もしっかりと行っていただければと思います。

○吉田市長　続きまして、報告事項の(1)三浦市立学校における働き方改革について、事務局から説明をお願いします。

○増田学校教育課長　それでは、三浦市立学校における働き方改革について、学校教育課より報告いたします。

別紙資料、令和5年度市内小中学校時間外勤務状況を御覧ください。

三浦市教育委員会では、令和3年3月に「三浦市立学校における働き方改革推進指針」を策定し、働き方改革について推進を進めているところです。

教育委員会としては、コロナ5類移行後も、引き続き年間5日間の学校閉校日の設定や、会議や研修を书面やオンライン形式での開催検討をするなど、真に必要なものについて集合開催すること等を考え、会議時間や移動時間を削減する工夫を行いました。

SSS（スクールサポートスタッフ）やICT支援員、介助員を配置することで先生方の負担を軽減するよう努めてきました。

資料1枚目のグラフは、校種別、職種別に令和5年度の月ごとの時間外勤務の状況を示したものです。

校長については、小中学校ともに特定の校長が月45時間以上の時間外勤務をしています。

教頭については、小中学校ともに校長に比べ、時間外勤務時間が多くなっています。教頭は慢性的に時間外勤務を行っている状況と捉えることができます。

総括教諭・教諭については、学校行事が再開されましたので、学校行事が実施される4、5、6月及び9、10、11月に時間外勤務が多くなる傾向があります。

なお、中学校につきましては、休日の部活動を含めると、半数が月45時間以上の時間外勤務を行っています。また、特定の教員が月80時間以上の勤務を慢性的に行っています。

養護教諭については、小学校に比べ中学校で月45時間以上の時間外勤務を行う教員の割合が多くみられます。

資料2枚目を御覧ください。

事務職員については、特定の事務職員を除くと月45時間以上の時間外勤務は行っていない状況です。

次に、「令和5年度小学校学校規模における時間外勤務状況の比較」のグラフを御覧ください。

上のグラフが小規模校（11学級以下）、下が中規模校（標準規模）（12学級以上18学級以下）の時間外勤務時間ごとの総括教諭・教諭の人数と、割合を示したものです。

昨年度も同様の傾向ではありましたが、全体的にみると、中規模校に比べ小規模校の月45時間以上の時間外勤務を行っている教員の割合が多くなっています。

これにつきましては、中規模校に比べ、小規模校は教員数が少ないため、学校行事や校務の精選を行ってはいるものの、どうしても教員一人当たりが受け持つ校務分掌が多くなる傾向になってしまうことが影響していると考えられます。

資料3枚目を御覧ください。

小中学校教諭等の時間外勤務の状況を、令和4年度、令和5年度で比較したグラフです。

緑が昨年度（令和4年度）、水色が今年度（令和5年度4月から12月）の時間外勤務の状況を表しています。前年度と比較してみると大きな変化がございました。

小学校では、前年度に比べ月45時間以上の時間外勤務をする教諭等の人数は27パーセントほど減少している数値となっております。中学校につきましても、前年度に比べ月45時間以上の時間外勤務をする教諭等の人数は16パーセント減少しました。

このことについては、5月以降教育活動が通常化され、学校行事、部活動も通常どおり実施できるようになりましたが、学校において働き方改革の指針が浸透してきて、在校時間を減らしても教育内容をしっかり堅持しようというような流れができているのではないかと考えております。

しかし、学校において果たすべき役割というのは多く、業務が減っているとは言い難い状況であります。

今後、特定の教員が偏って業務を行っていないか、組織としての業務遂行ができているかということを見極める必要があると考えております。

次に資料5枚目を御覧ください。

中間報告になりますが、教職員の働き方改革を推進するために行ってきた令和5年度の主な取組内容について説明いたします。

三浦市の指針において、働き方改革を推進するための視点を、「業務改善」、「環境整備」、「人的支援」、「健康・安全」の4つを掲げておりますので、視点ごとに報告させていただきます。

「業務改善」につきましては、コロナの時期に会議や研修を、書面開催やオンライン開催することが多くなりましたけれども、必要とする集合開催以外はできるだけ書面開催やオンライン開催、時間の工夫をすることで業務にあたる時間を減らすことをさせていただきました。

また、引き続き様式等の変更を行っており、その中には出席簿の変更や、調査の簡素化を実施しております。

次に「環境整備」につきましては、夏休み中に4日間、冬休み中に1日の計5日間、学校閉校日を設けました。また、ICカードを用いた出退勤管理システムを引き続き運用して、客観的に把握できるよう努めております。

次に「人的支援」につきましては、今年度もスクール・サポート・スタッフの全校配置を行っております。また、ICT支援員については、2名体制とし、定期的に各学校に派遣し、授業準備や授業補助を行ったりすることで、教員の業務軽減に取り組んでおります。

最後に「健康・安全」につきましては、全教職員に対して教職員のストレスチェックを実施しております。

次年度以降の新たな取組み予定としては、令和6年度に校務支援ソフトの導入を目指し準備を進めているところです。

説明は以上になります。ご協議よろしく申し上げます。

○吉田市長 説明は終わりました。
御質問等ありましたらお願いします。

○石渡委員 今回の説明を聞いて現場のほうもかなり努力されているのかなと思いますが、単純に時間外勤務が減れば良いという問題ではないと思うんですね。子どもたちと先生方がきちんとして、繋がりがあっていい教育ができることが大切かなと思います。そういう意味では学校業務に支障をきたして、メンタルや身体の具合を悪くするというような話も聞くのですが、三浦の現状はどうなのでしょう。

○増田学校教育課長 まず、委員のおっしゃるとおり時間外勤務を減らすことだけが目標ではなく、業務をしっかりと精選しながら質を落とすことなく子どもたちに対応できることを目指すことが本来と考えております。そういった中でのメンタルの状況を申し上げますと、若干の教職員が健康を取り戻すために休職というかたちをとっております。

○村山委員 令和5年度の主な取組内容の人的支援について、学生ボランティアの受け入れとありますが、これは応募がきているのか、逆にこちらからお願いをするかたちができているのでしょうか。

○増田学校教育課長 学生ボランティアの受け入れにつきましては、各学校において教育実習を行う方が毎年いますので、その方を実習が終わった後に声かけをさせていただいているのがひとつ、それから神奈川県の実業で学生を各学校に派遣するという事業を行っております。その事業で今年度も数名の方が三浦市の小中学校へボランティアに来ていただきました。そのほかに三浦市教育委員会のほうに「何かできることはないだろうか」というお声もいただいておりますので、そういった方を学校に紹介してボランティアとして活躍いただいているという例もございます。

○村山委員 もう少し三浦市全体で専門的な分野の方の把握といいますか、例えばICTなんかは得意な人はいると思うので、そういった人を率先して協力してもらおうとか、専門的な分野に長けている人を三浦市として把握して、何かのときはアドバイスを受けるとか先生が自分で勉強してスキルアップをするというのはなかなか大変だと思いますので、そういったサポートもできるというのではないかなと思います。それをどういったかたちで行うかは難しいんです

けれども、いろいろな人材が埋まっていると思いますので、三浦市の人材を活用する、子どもたちの教育に携わってもらおうという流れができるといいのではと思います。

○石崎委員 働き方改革の成果というは少しですが昨年度よりも今年度のほうが時間外勤務が少ないという状況ですけれども、時間外は何の業務が一番多いのでしょうか

○増田学校教育課長 教職員の業務がなかなかこの業務で残るといのは明確に規定できない部分があります。先生一人一人が自分のクラスのことや校務分掌等の仕事を自分のペースで行っておりますので、この業務で遅くなっているといのは、なかなか図りがたいといのはございますので、そのようなデータはございません。

○廣瀬委員 昨年学校訪問に行かせていただいたときに学校別に選ぶテーマが中学校3校ともすべて働き方改革の現状と課題ということだったと思います。それだけ中学校は厳しいのかなと思いました。特にその中の話で、どこの学校も部活は教員の献身的な働きによるものが多いということを知りましたが、このことはいつも上がる課題ですけれども、引き続き働き方の改革に向けて考えていってほしいなと思います。

○及川教育長 教員の働き方改革については、ほかの市町の教育長と集まる会議の中でも話題に上るところではあります。県教委とも話をしていく中では、先ほど石渡委員からもありましたけれども、働き方改革といのは教員の働く時間を減らすということを目指してはいけない、もちろん減らさなければいけない部分といのはあるんですけども、それ以上に教職といものがやりがいを持てるようなそういう改革にしていかなければいけない。もう一つそれから派生してくる部分なんですけれども、教員を目指す学生を増やしていくということにも繋がっていかねばいけない。今、教養課程のある大学でもその学部の学生が先生を目指すかといえそうではない状況があります。神奈川の教員の採用試験の応募者数も倍率をみればわかるんですけども少ないです。そのような状況から先生になりたいという人を増やせるような働き方改革に繋がっていかねばならないだろうと思います。三浦市としてもきちんと心にしながら目指していかなければいけない、そういう学校づくりを進めていかなければいけないと思います。

あと廣瀬委員がおっしゃった部活動についても大きな問題があります。このこともよく話題になりますが、部活動の地域移行ということについては、提案された時点から色んな課題があって、そのまま地域で受け皿になれる状況といのがそれぞれの地域であるのか、例えば三浦市で考えたときに中学校の部活動、土曜日、日曜日だけと言っても地域に受け皿になるだけのものがあるかといえ中々そうではなく、そういうところは全国を見ても多いです。神奈川県でも国からきたものに対して県のガイドラインを10月に出しましたけれども、結局は地域の実情に応じてということになってしまいます。けれども部活が先生方の負担になっている部分は大きいので、ここは別の視点でどのようにしたら負担を軽減していくことができるか真剣に考えていかなければいけないなと思っております。そういうことは三浦市としてきちんと皆さんとも協議を進めていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○村山委員　今の部分で地域に部活を任せるとするのは難しい部分があると思うんですけども、学校にコーチとして来てもらうというのは進んではないのでしょうか。

○増田学校教育課長　外部指導者という制度がありまして、三浦市も外部の指導者を学校に迎えてやっていただくということはこれまでも行っております。

○村山委員　それは成果とすれば出ているということでしょうか。

○増田学校教育課長　競技の専門性というところでは非常に効果があるのかなというところですね。

○村山委員　結構な人数がおられますか。

○増田学校教育課長　コロナ禍で学校にコロナを入れないという方針で外部指導者もお願いできない状態が続いていたというところで、今、回復しつつあるというような状況でございます。

○吉田市長　部活の問題は、地域との問題もあるので、非常に課題が多いんですよね。どちらにしても働き方改革については、今までも教育委員会で議論していただいていると思いますので、今後もよろしくお願いします。

○吉田市長　そのほかよろしいでしょうか。

なければ今日の総合教育会議の議事は終了しましたので、事務局へお返しいたします。

○増井教育部長　ありがとうございました。

本日予定していた内容はすべて終了いたしました。

以上を持ちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

◇ 午後2時41分 閉会 ◇
